

アジア経済トレンド

2012年7月

目次

韓国	1
台湾	2
ASEAN・インド	3
中国	4



株式
会社

日本総合研究所

調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/asiatrend>

本資料は2012年7月26日時点で利用可能な政府統計等をもとに作成

本資料に関するご照会先

調査部

向山 英彦 (mukoyama.hidehiko@jri.co.jp)

佐野 淳也 (sano.junya@jri.co.jp)

1. 韓国経済

<4～6月期は前期比0.4%へ低下、約3年半ぶりに利下げ>

2012年4～6月期(速報値)は0.4%へ低下
 ・4～6月期の実質GDP成長率(前期比)は、輸出が▲1.4%になったこと、設備投資が前期に著しく伸びた反動で▲6.4%へ低下したこと、民間消費が0.5%増と伸び悩んだことなどにより、1～3月期の0.9%を下回る0.4%に。

前年同期比は2.4%で、1～3月期の2.8%を下回った。輸出が3.2%となったのに対して、総固定資本形成は▲1.5%。民間消費は1.2%にとどまった。

内外需の低迷が続く

・6月の輸出(通関ベース)は前年同月比1.3%増(速報値)と4カ月ぶりの前年比プラスに。12年上期は前年同期比0.7%増(対米国10.7%増、対EU▲16.0%、対中国▲1.2%)。

・消費に関しては、主要デパートの売上が4月、5月、6月と前年割れ。自動車販売も勢いを欠く。消費低迷には、実質所得の伸び悩み、債務返済負担の増大、ソウル特別市における住宅市況の低迷(韓国では投資目的での住宅購入が多い)などが影響。

・家計債務抑制策が強化(2011年半ばより「家計債務総合対策」が実施されたが、ノンバンクと保険会社などの融資が伸びたため、今年、それらを対象にした抑制措置を実施)された結果、銀行の家計向け融資姿勢が厳しくなり、これまで増加し続けていた家計債務が今年1～3月期に減少に転じる。これにより、消費が下押しされる恐れ。

・ノンバンクでは家計向けローンの不良債権比率が上昇しており、注意が必要。

3年ぶりに利下げ実施

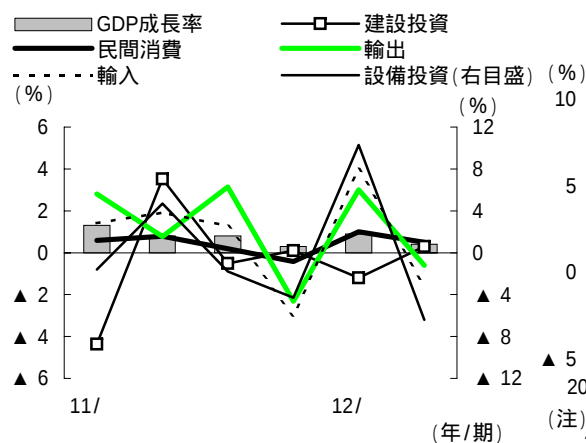
・インフレ圧力の低下と景気の減速を受けて、韓国銀行は7月12日、約3年半ぶりに政策金利を0.25%ポイント引き下げた。

2012年は3.2%成長に

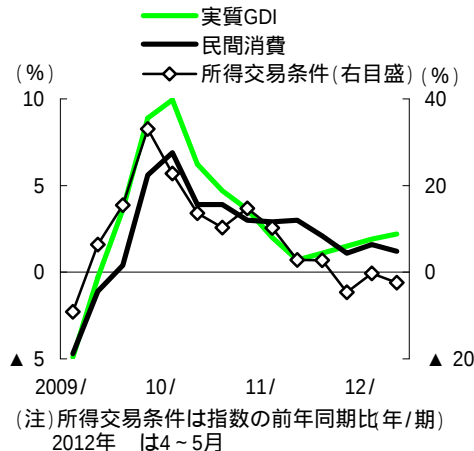
・韓国銀行は4月、今年の実質GDP成長率見通しを3.5%に、7月には3.0%へ下方修正(昨年末時点は3.7%)

・消費が予想以上に冷え込めば、2%台となる可能性も。

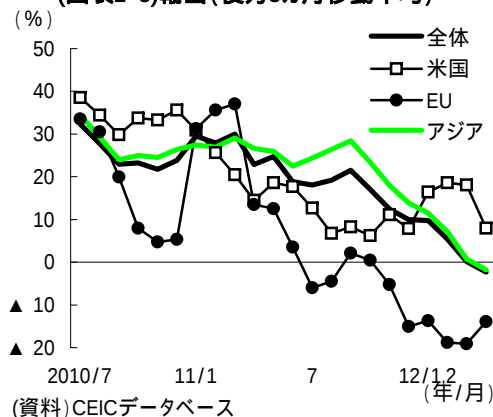
(図表1-1)実質GDP成長率(前期比)



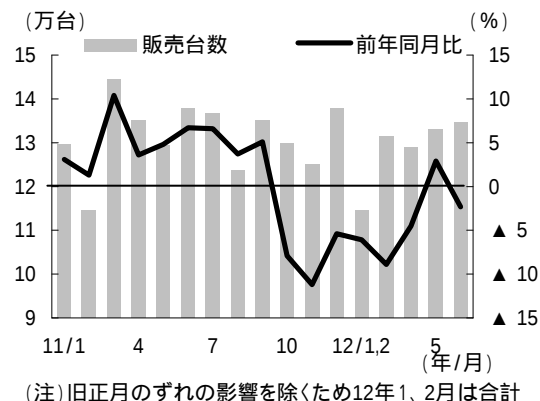
(図表1-2)実質GDIと民間消費(前年同期比)



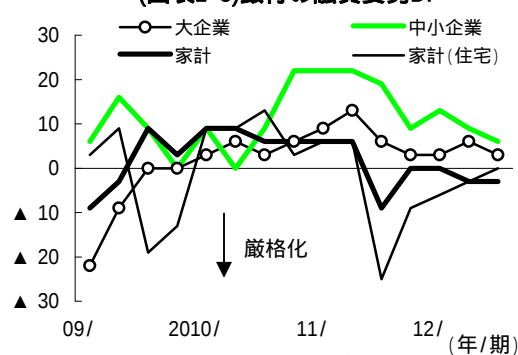
(図表1-3)輸出(後方3カ月移動平均)



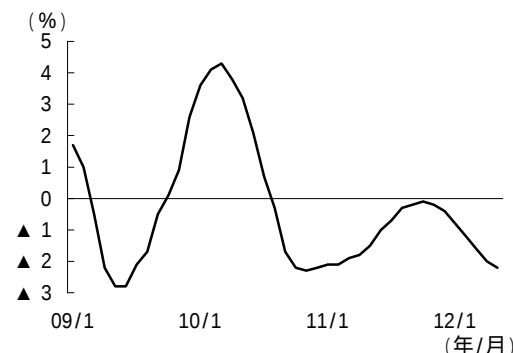
(図表1-4)国内自動車販売台数(輸入車を含む)



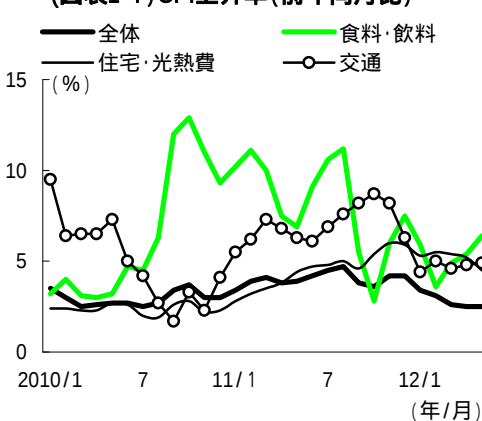
(図表1-5)銀行の融資姿勢DI



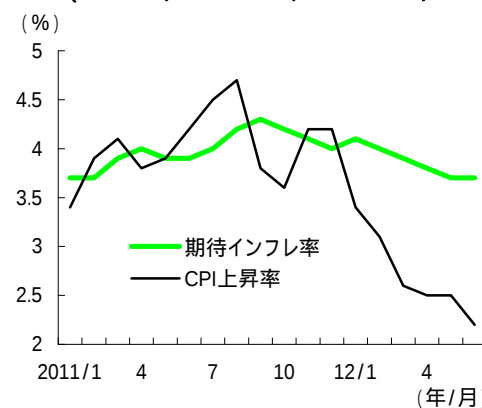
(図表1-6)ソウル特別市の住宅価格(前年同月比)



(図表1-7)CPI上昇率(前年同月比)



(図表1-8)CPI上昇率(前年同月比)



2. 台湾経済

<内外需の低迷が続く、2012年の成長率は2%台になる見通し>

1～3月期は前年同期比0.4%の成長、前期比は3期ぶりのプラスに
・2012年1～3月期の実質GDP成長率(前年同期比、以下同じ)は0.4%と、10～12月期の1.9%を下回った。民間消費が1.7%増となったのに対して、輸出が▲3.3%、総固定資本形成▲10.5%。

前期比成長率(年率換算)は1.1%と、3期ぶりのプラスに(7～9月期▲0.2%、10～12月期▲0.6%)。

厳しい輸出環境が続く

・足元をみると、6月の輸出(通関ベース)が前年同月比(以下同じ)▲3.2%と、前年割れが続く。欧州向け▲11.9%、米国向け▲14.0%。全体の約4割を占める中国・香港向けは▲1.6%と、マイナス幅が縮小。また全体の2割弱を占めるASEAN6向けは前月の4.0%増から6.1%増へ。

・小売売上高指数の伸び率は昨年秋口以降鈍化傾向。5月は自動車の販売台数が大幅に増加したため高い伸びになったが、6月はその反動で低い伸びに。

・内外需の低迷を受けて、6月の製造業生産指数は前年同月比▲3.3%と、マイナス幅が再び拡大。

・失業率(季調済)は5月4.25%、6月4.24%。

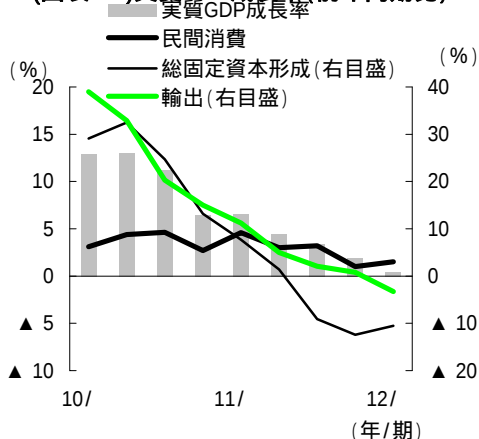
・輸出受注額は3月以降前年割れが続き、6月は前年同月比▲2.6%。米国向けが▲2.3%、中国・香港向けは▲3.6%、欧州向け▲0.4%。品目別では情報通信機器2.0%増となった一方、電子機器▲3.9%、精密機器類▲3.7%。

今後の経済見通し

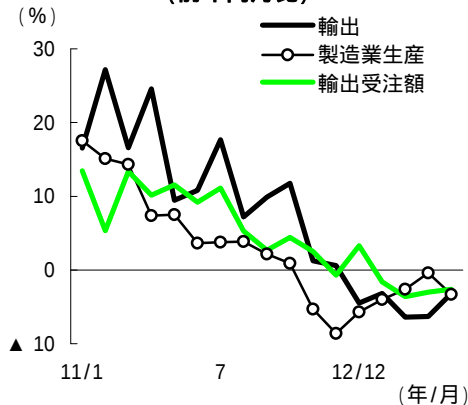
・台湾政府は5月25日、2012年の実質GDP成長率見通しを2月に発表した3.85%から3.03%へ下方修正。

・中国向け輸出の低迷がしばらく続き、輸出の回復は年後半にずれ込む公算大。2012年の実質GDP成長率は2.7%になるものと予想。

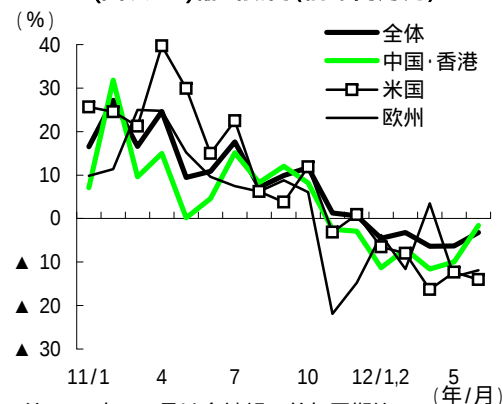
(図表2-1)実質GDP成長率(前年同期比)



(図表2-2)輸出・生産関連指標(前年同月比)

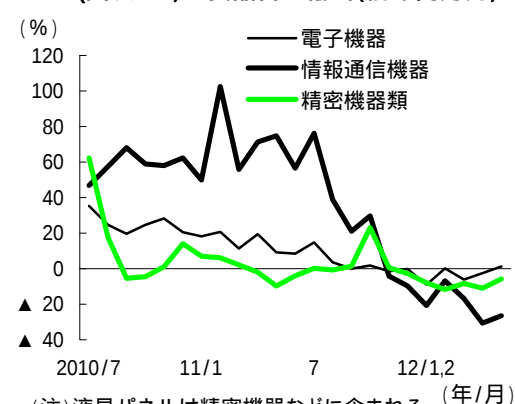


(図表2-3)輸出動向(前年同月比)



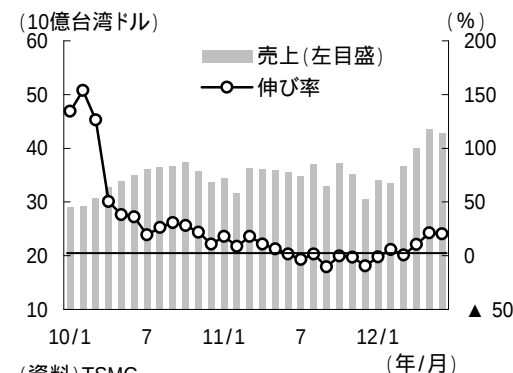
(注)2012年1、2月は合計額の前年同期比

(図表2-4)主要品目の輸出(前年同月比)



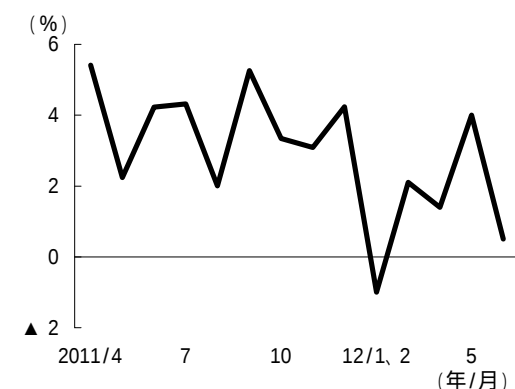
(注)液晶パネルは精密機器などに含まれる

(図表2-5)TSMC

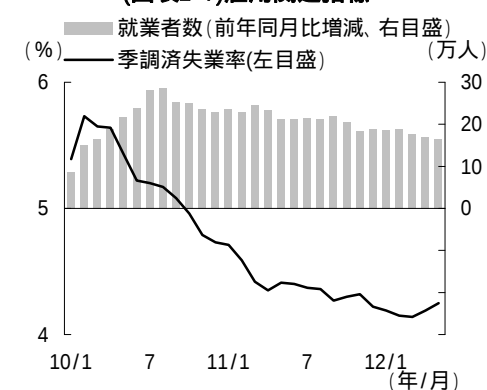


(資料)TSMC

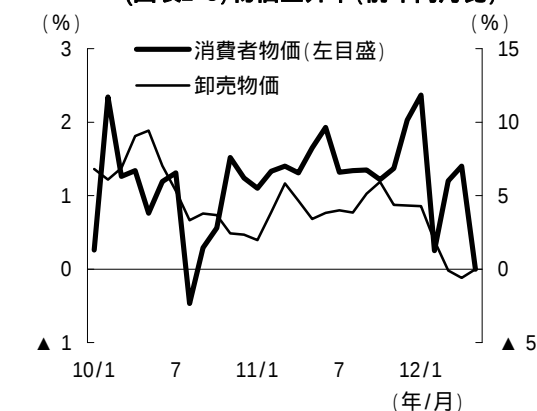
(図表2-6)小売売上指数(前年同月比)



(図表2-7)雇用関連指標



(図表2-8)物価上昇率(前年同月比)



3. ASEAN・インド経済

<シンガポールでは4～6月期の成長率が前期比マイナスに>

ASEAN諸国

・シンガポールの4～6月期(速報値)の実質GDP成長率は前年同期比1.9%と、1～3月期の1.4%に続く1%台。前期比はマイナスに。

・インドネシアの1～3月期の実質GDP成長率(前年同期比)は前期をやや下回る6.3%に。世界経済の減速の影響を受けて輸出が7.8%増と鈍化したものの、民間消費4.9%増、総固定資本形成9.9%増と内需が安定的に伸びた。

足元では、4月、5月と輸出が前年割れ(需要の低迷と一次産品価格の下落の影響)。貿易収支は赤字に転じ、ルピア安基調に。また、6月15日より住宅、自動車、バイクなどの消費者ローンに対する規制が強化されたため、6月の二輪車の販売が前年同月比▲17.7%。

・マレーシアでは民間消費と総固定資本形成が高い伸びとなったが、輸出の減速により1～3月期の実質GDP成長率(前年同期比、以下同じ)は前期をやや下回る4.7%に。

・洪水により景気が落ち込んだタイでは、ほぼ順調に回復。実質GDP成長率(前年同期比)は10～12月期の▲8.9%から1～3月期には0.3%へ。民間消費2.7%増、総固定資本形成5.2%増となったのに対して、輸出は▲3.2%。

5月の自動車販売台数が11万台となり、単月ベースで過去最高に。生産の復旧に加えて、減税策が寄与。

・ベトナムでは4～6月期の実質GDP成長率が前年同期比4.7%に。CPI上昇率(前年同月比)は低下傾向にあり、7月は5.4%。景気の減速とインフレ率の低下を受けて、7月に今年5回目の利下げ実施。今後も追加利下げの公算大。

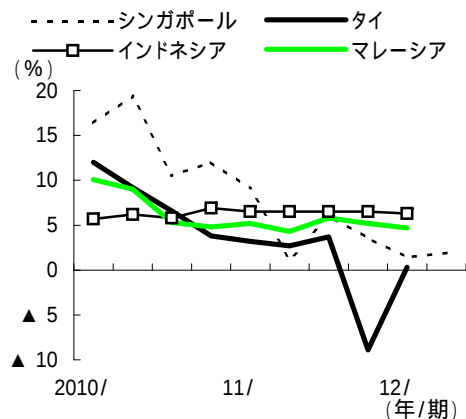
インド

・インドでは1～3月期の実質GDP成長率(前年同期比)が5.3%と、7年ぶりの低さに。内外需の減速が響き、製造業は▲0.3%に。足元では、内外需の低迷が続く。

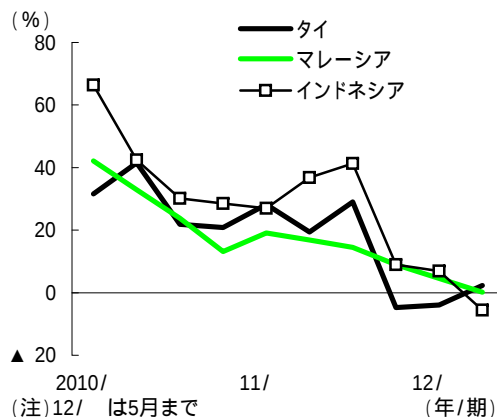
・景気減速を受けて、4月17日に政策金利が0.5%引き下げられたが、卸売物価上昇率(前年同月比)が6月に7.2%と高止まりしており、大幅な金融緩和は難しい状況に。

・2012年度(2012年4月～13年3月)は11年度と同じ6.5%になるものと予想。

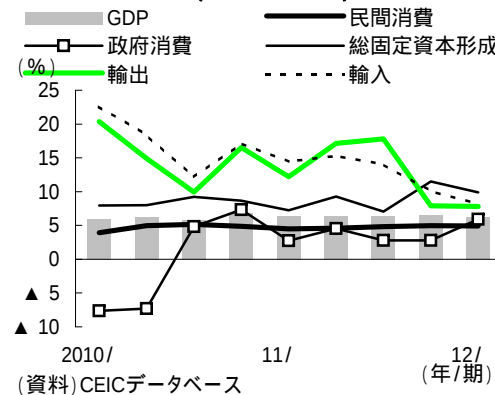
(図表3-1)実質GDP成長率(前年同期比)



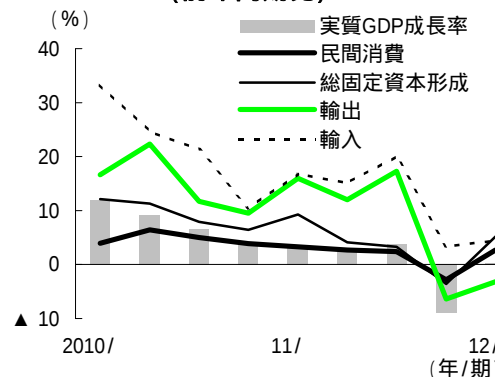
(図表3-2)輸出(前年同期比)



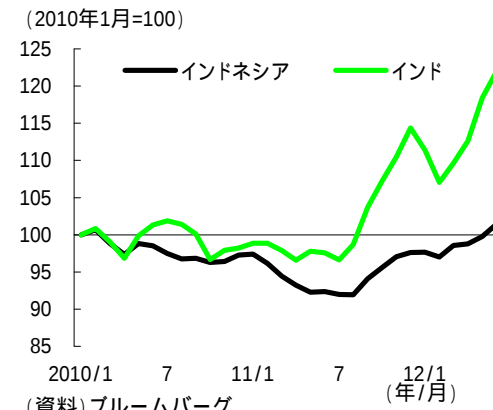
(図表3-3)インドネシアの実質GDP成長率(前年同期比)



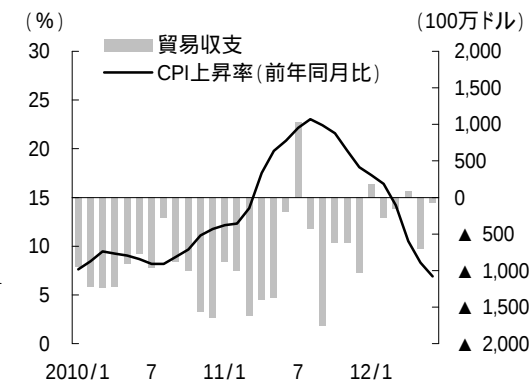
(図表3-5)タイの実質GDP成長率(前年同期比)



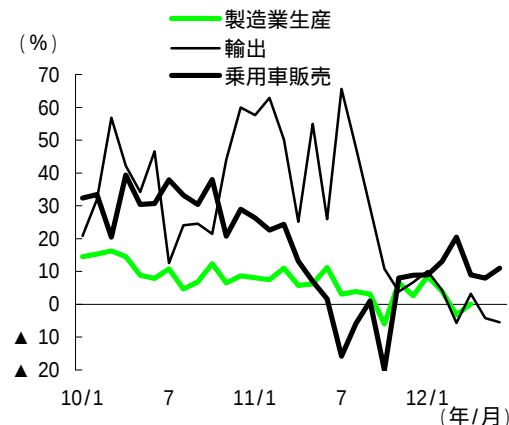
(図表3-4)対米ドルレートの推移



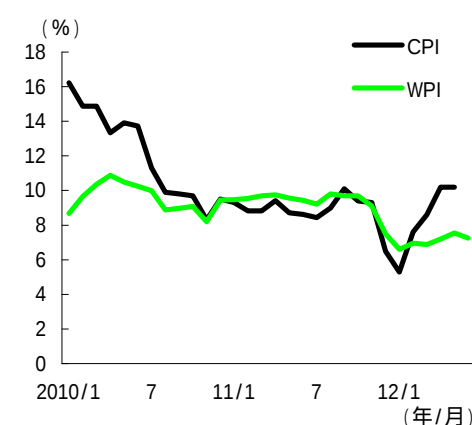
(図表3-6)ベトナムの経済指標



(図表3-7)インドの経済指標(前年同月比)



(図表3-8)インドの物価上昇率(前年同月比)



4. 中国経済

<4～6月期は7.6%成長、2カ月連続の利下げ>

2009年1～3月期以来の低成長

- ・4～6月期の実質GDP成長率(前年同期比)は、7.6%。6四半期連続で前四半期の実績を下回るとともに、2009年1～3月期(同6.6%)以来の低成長。
- ・内外需いずれも、景気減速をもたらす要因に。1～6月期の固定資産投資(除く農村家計)は1～3月に比べて0.5ポイント低下し、前年同期比20.4%増。09年半ばのピーク対比10%ポイント以上伸びが鈍化。ただし、5月以降、投資拡大に向けた措置が打ち出されており、足元では伸び率持ち直しの兆しも。

消費は、景気を押し上げるには力不足

- ・物価上昇の鈍化もあって、実質小売売上高の伸びは若干持ち直すも、名目での伸び率は低下基調続く。1～6月の成長率7.8%に占める消費の寄与度は4.5%ポイントと1～3月より低下しており、景気を押し上げる要因として、消費は力不足。
- ・6月の輸出は、前年同月比11.3%増。増勢が再び鈍化。

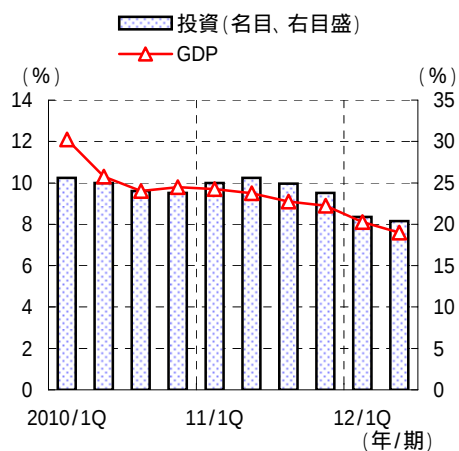
2カ月連続で基準金利を引き下げ

- ・7月5日、2カ月連続となる基準金利の引き下げを発表(翌6日実施)。貸出金利の引き下げ幅を預金金利の場合よりも大きく調整。貸出金利の下限を基準金利の0.8倍から0.7倍に引き下げる措置も示され、金融緩和による景気浮揚に取り組む姿勢が鮮明化。

副作用を回避しつつ、景気対策を拡充できるかが今後のカギに

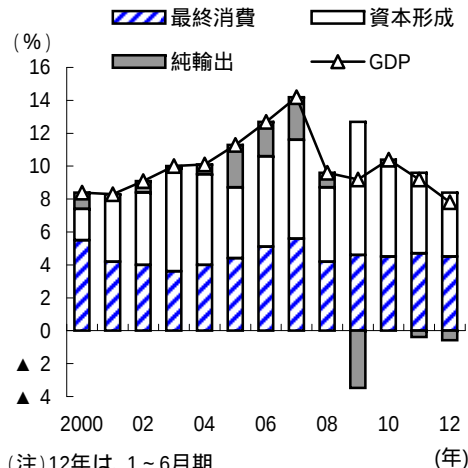
- ・温家宝首相、安定成長を一段と重視し、内需の拡大に注力する方針を表明。他方、7月上旬の地方視察の際には、不動産投機抑制策の堅持を改めて言及。景気浮揚策を適切に実行しつつ、その弊害や副作用も未然に防止したいとの意図が看取。
- ・景気は一連の対策が奏功し、年後半は持ち直す見込み。通年では、8.2%成長となる見通し。

(図表4-1)GDP成長率、投資(前年同期比)



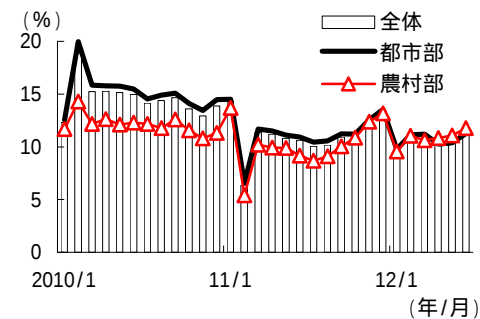
(注) 投資は年初からの累計比、11年より基準変更

(図表4-2)需要項目別成長寄与度



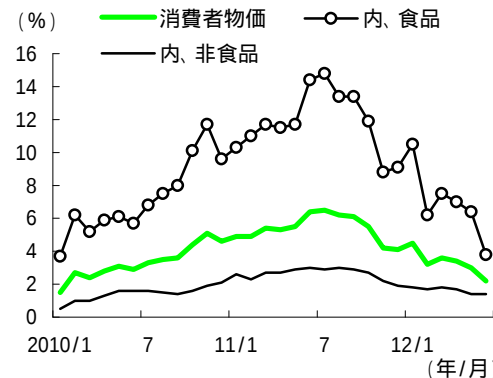
(注) 12年は、1～6月期
(資料) 国家統計局、CEICデータベース

(図表4-3)小売売上高(前年同月比)

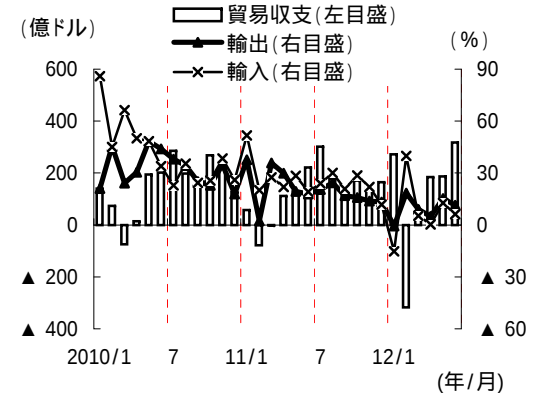


(注) 1. 消費者物価指数で実質化
2. 2012年から1月、2月は、1～2月の伸び率を使用

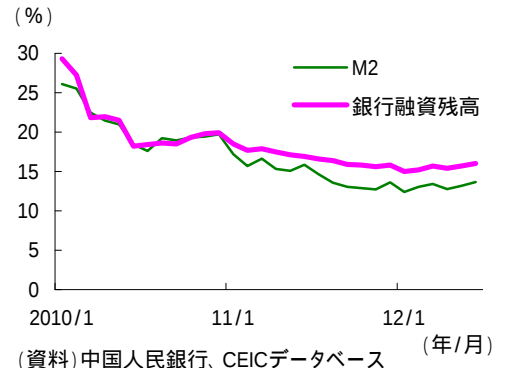
(図表4-5)物価上昇率(前年同月比)



(図表4-4)輸出入(前年同月比)、貿易収支

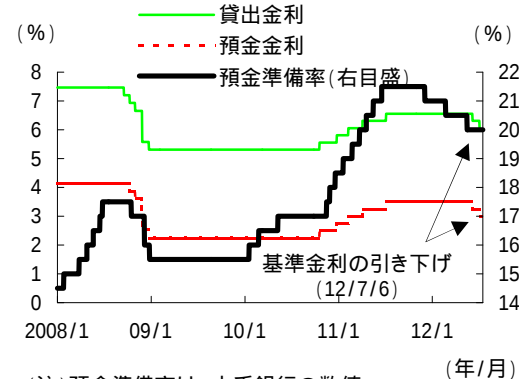


(図表4-6)M2、銀行融資残高(前年同月比)



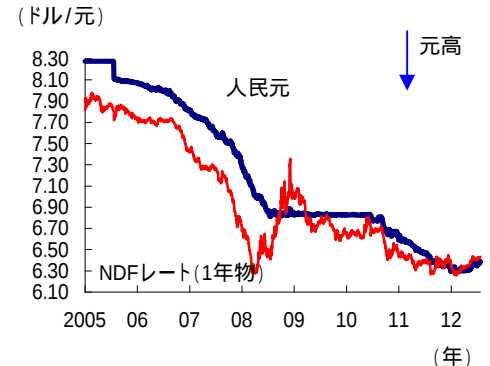
(資料) 中国人民銀行、CEICデータベース

(図表4-7)基準金利(1年物)、預金準備率



(注) 預金準備率は、大手銀行の数値

(図表4-8)人民元レート



(注) 最新は、12年7月25日